

山陽総業株式会社

ポストコロナにおける 防音ドア事業の拡大に向けた加工機の導入

山陽総業の主力は木製の建具や特注家具の製造。創業家の手を離れ経営再建に入っていたところ、2018年に再建を終えた。決め手になったのは主力製品であるドアの出荷が堅調に伸びたこと。ただ、従来のドア加工機は老朽化で精度が悪化しベテラン社員しか操作できなくなっていた。そこで最新鋭のドア複合加工機を導入。生産性を大幅に高めた。

会社概況

ドアなど建具軸に堅実経営

山陽総業は1942年の創業で、ブラシの製造からスタートし事業を拡大、木工技術の中核に厨房機器や住宅設備、パネルなどにも手を広げた。一時は500人近い従業員を抱え、1966年には皇太子夫妻(現上皇夫妻)が行啓にみえるなど地域を代表する企業となった。1995年に中国福建省、翌年ラオスと海外に展開したが、これがあだとなった。2007年には岡山県中小企業再生支援協議会(現岡山県中小企業活性化協議会)の支援を受けて経営改善計画を策定。2度の経営改善計画と私的再生を経て2018年に自主経営に復帰した。復帰の柱となったのが室内ドアなど木製建具製品の伸び。大型施設向け特注家具との二本柱で堅実経営を続けている。



趣ある本社棟。多数の工場棟に取り囲まれるように建つ

事業内容

ドア側面加工効率化が課題に

経営再建を支えてきたドアの製造。設計から出荷まで一貫してこなせることを強みとしてきた。大きく六つの製造工程がある中で、側面加工と表面加工の2工程が、性能や外観を決める上で重要になっている。このうち表面加工は独自の工法により、ガラス窓を装着した高付加価値な製品を、気密性とデザイン性を高めて仕上げられるなど、高い評価を得てきた。課題だったのが側面加工。特に単価の高い高級タイプのドアでは、溝の加工誤差を従来の0.3ミリメートルから0.1ミリメートル以下に高める必要があった。側面加工機は老朽化しており、温度や湿度に合わせた微調整が必要。古い機械を扱えるベテラン社員がつきっきりで操作する必要があった。



主力商品であるドア

事業成果

ボトルネック解消で生産性向上

そこで、YASAKA(浜松市中央区)製のドア複合加工機「DX-2712」を2024年2月に導入した。数値制御(NC)装置に加工プログラムを入力すれば、機械が自動でズレなどを補正し、高精度な加工を行うことが可能になる。これによりドア側面の加工時間は、普及タイプの製品で1台当たり11.5分と33%短縮。高級タイプでは同7.2分と43%短縮した。ベテラン以外の一般の若手社員も機械を扱うことが出来るようになり、ボトルネックが解消。仕事量に応じて他部門の社員がドアの製造を手伝ったり、ドア部門の社員が収納家具の製造に回ったりすることが容易になった。「生産性は目に見えて向上した」と三宅剛毅社長は話す。



導入したドアの複合加工機

ワンポイント

特注家具の受注も拡大へ

ドア製造のボトルネックが解消し、需要に応じた柔軟な体制が取れるようになったことで、もう一方の特注家具事業にも好影響が出てきた。特注家具では大規模施設向けに多数の家具を製造・納入する必要がある。こなせる実力があることが取引先に認知され、注文が増えてきたという。「生産性が向上し安心して発注してもらえる体制になった。さらに需要を掘り起こしながら、発展していきたい」(三宅社長)。



代表取締役
み や け つ よ し
三宅 剛毅さん

会社概要 company profile

創 業 1942年
資 本 金 1000万円
代表取締役 三宅 剛毅
社 員 数 41人
売 上 高 約7億円(2025年3月期)

所 在 地 岡山県赤磐市黒本37
T E L 086-954-9001
F A X 086-954-9322
U R L <http://www.sanyosogyo.co.jp/>